



高速汚泥処理に特化した「エコポーチ」を開発

新連携事業により、「高速汚泥処理システム」MC工法に特化した「エコポーチ」を開発。業務分担は、連携先のコア企業が企画・営業を担当、当社は「エコポーチ」の製造にあたる。コンテナバックの中で汚泥(ヘドロ)を固形物と浄化した水に分別・脱水し、沈殿物のみがバックに残るのが特徴で、処理コストの大幅削減や建設業者以外にも用途拡大が可能。

業況等の動向について

本業の動向について

産業用フレキシブルコンテナバック(PP(ポリプロピレン)・PE(ポリエチレン)製で粉末や粒状物の荷物の保管・運搬をする為の袋状の包材)の開発、製造。日本フレキシブルコンテナ工業会・認定製品製造及び各種包装容器の設計及び製造販売を手掛ける。

2011年は国内・外ともに様々な変化があり、円高の影響も受けて、国内需要に影響が出ている。必要な原材料が届かないといったこともあり、製品製造にも影響している。

異業種参入事業の概要

経済産業省の新連携事業(4社)による、高速汚泥処理システム「MC工法」に特化した「エコポーチ」の製造。また、MC工法は国土交通省の認定も取得している

製品販売などの企画・営業面はコア企業が行い、弊社は、「エコポーチ」製造を手掛けるシステムになっている。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

コア企業からの共同開発の発案と依頼があり、これまで培ってきた製造技術の活用ができ、新規製品開発の機会にもなり有効であると考え、共同開発、製造することとした。

マーケティングについて

実施はしたが、共同開発をするときに合同でおこなったのみ(フレコンバックの性能について等)。独自のマーケティングについては特に行ってはいない。

参入して最も成果のあがったこと

その後の新製品開発、新規展開につながっている。

参入して最も困難だったこと

試作品作りで水の脱水具合や袋の強度といった様々な面で予想外の結果が出るなどがあり、改良を行うなど困難を感じた。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

50年以上培ってきた製造技術を活用。コンテナバックの中で汚泥(ヘドロ)を固形物と浄化した水に分別・脱水し、沈

殿物のみがバックに残るのが特徴。この点を活かし、コンテナバックで濁水や汚泥の沈殿物をろ過し、残った沈殿物をコンテナバックごと運搬出来る点で処理コストの大幅削減につながる。また、建設業者以外にも使用拡大が出来る。

今後の展望・見通し

コア企業の今後の展開次第であり、生産が拡大になった場合でも対応できる準備は整っている。

現在コア企業と東日本大震災における除染作業に対応できる新製品開発に着手した。

メリット・デメリット

メリットとしては、要求度に応じた製品を開発し製造する経験が製造メーカーとして蓄積され、更なる新規分野への展開、新規製品の開発に繋がっていく。製造品目が増えれば販路拡大になり、更に、新製品の開発になる、点があげられる。

デメリットは、あまり感じていない。

異業種参入時のアドバイス

当社のような連携による開発に関していえることは、各々の持ち場に対して、プロとしての意識を持ち、一つの目的を共有し成功させるという気持ちで臨むこと。そして、開発した製品を有効活用すること。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度サンプルで袋を小刻みに単発で提供を受けたこと。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

予算化などよりも製品の市場へのPRなどを積極的に行ってほしい。開発製品などを色々な形で拡げることが出来る場を作ってほしい。

会社概要

設立：1962年(昭和37年)12月

資本金：2,000万円

従業員数：60名

URL：<http://www.nipposeitai.co.jp/>